

# 2013年9月期 決算説明会

(2014年3月期 第2四半期)

2013年12月6日

株式会社 西日本シティ銀行



## I 業績の概要

1. 2013年9月期業績	
①単体損益	3
②連結損益	4
③単体開示債権	5
④連結自己資本比率	6
⑤単体有価証券	7
2. 2014年3月期業績予想	
①単体損益	8
②連結損益	9

## II 中計 New Stage 2011 ~元気よく~

1. 中計の概要	
①フレームワーク	11
②2つのコンセプト	12
2. コーポレート分野の取組み	
①企業まるごとサポート	13
②事業性融資	14
③国際ビジネス	15
3. リテール分野の取組み	
①人生まるごとサポート	17
②個人ローン	18
③預り資産	21
4. 生産性の向上	23

## III 来期以降の展望

1. 経営環境と当行の位置づけ	25
2. 次の中計と次の10年	26

# I 業績の概要

# 1. 2013年9月期業績

## ① 単体損益

単体ベースの中間純利益は143億円(前年同期比+50億円)となった。

### 単体損益

	13/9月期		12/9月期
		前年同期比	
コア業務粗利益 [注1]	586	+ 9	577
資金利益	520	+ 7 ②	513
(うち 貸出金利息)	(434)	(△ 24)	(458)
(うち 有価証券利息配当金)	(125)	(+ 27)	(98)
(うち 預金等利息) △	(22)	(△ 3)	(25)
役務取引等利益	61	+ 1	60
その他	4	+ 1	3
経費 △	370	+ 18 ③	352
コア業務純益 [注2]	216	△ 9	225
債券等関係損益	0	△ 40 ④	40
株式等関係損益	9	+ 99	△ 90
(うち 株式等償却) △	(0)	(△ 86) ①	(86)
信用コスト [注3] △	3	△ 15	18
その他臨時損益+特別損益	6	+ 17	△ 11
税引前中間純利益	228	+ 83	145
法人税等 △	85	+ 33	52
<b>中間純利益</b>	<b>143</b>	<b>+ 50</b>	<b>93</b>

[注1] 業務粗利益－債券等関係損益

[注2] コア業務粗利益－経費

[注3] 一般貸倒引当金繰入額＋不良債権処理損失額－貸倒引当金戻入益－償却債権取立益

単位: 億円

### 前年同期比増益の主な要因

- ① 株式等償却(△)の減少 前年同期比 △86億円
- 12/9月期は株価下落により保有株式の減損処理が多かったが、13/9月期は株価が安定的に推移した。

### 前年同期比増減要因(特記項目)

#### 【利益プラスの項目】

- ② 資金利益の増加 前年同期比 +7億円
- 市場動向を捉え、投信の一部を解約して利益確定を行った結果、有価証券利息配当金が増加した。

#### 【利益マイナスの項目】

- ③ 経費(△)の増加 前年同期比 +18億円
- 地銀共同センターへのシステム移行(13/1月実施)に伴うシステム投資の減価償却等により、機械化関連費用が増加(前年同期比+22億円)した。
- ④ 債券等関係損益の減少 前年同期比 △40億円
- 12/9月期は、国内債券や外債の一部を売却して低金利を捉えた利益確定を行った。

# 1. 2013年9月期業績

## ②連結損益

連結ベースの中間純利益は154億円(前年同期比+57億円)となった。

### 連結損益

	13/9月期				12/9月期
	前年同期比	うち 当行単体	うち 連単差		
コア業務粗利益 [注1]	670	+ 18	+ 9	+ 9 ②	652
資金利益	551	+ 8	+ 7	+ 1	543
役務取引等利益	109	+ 7	+ 1	+ 6	102
その他	10	+ 4	+ 1	+ 2	6
営業経費 △	423	+ 13	+ 14	△ 1	410
コア業務純益 [注2]	250	± 0	△ 9	+ 10 ③	250
債券等関係損益	0	△ 40	△ 40	△ 0	40
株式等関係損益	9	+ 99	+ 99	+ 0	△ 90
(うち 株式等償却) △	(0)	(△ 87) ①	(△ 86)	(△ 0)	(87)
信用コスト [注3] △	9	△ 12	△ 15	+ 3	21
その他の経常損益+特別損益	12	+ 15	+ 12	+ 2	△ 3
税金等調整前中間純利益	259	+ 92	+ 83	+ 10	167
法人税等 △	95	+ 35	+ 33	+ 3	60
少数株主利益 △	10	+ 1		+ 1	9
<b>中間純利益</b>	<b>154</b>	<b>+ 57</b>	<b>+ 50</b>	<b>+ 7</b>	<b>97</b>

[注1] 業務粗利益－債券等関係損益

[注2] コア業務粗利益－経費〔営業経費から臨時処理分を除く〕

[注3] 貸倒償却引当費用－貸倒引当金戻入益－償却債権取立益

単位:億円

#### 前年同期比増益の主な要因

- ① 株式等償却(△)の減少 前年同期比 △87億円
  - 12/9月期は株価低迷により保有株式の減損処理が多かったが、13/9月期は株価が安定的に推移した。

#### 連単差の前年同期比増減要因(特記事項)

- ② コア業務粗利益の増加 前年同期比 +9億円
- ③ コア業務純益の増加 前年同期比 +10億円
  - 西日本シティTT証券(2010年5月開業)の業績が拡大した。

# 1. 2013年9月期業績

## ③単体開示債権

単体ベースの開示債権は1,615億円(13/3月末比△13億円)、開示債権比率は2.94%(13/3月末比△0.07%)となった。

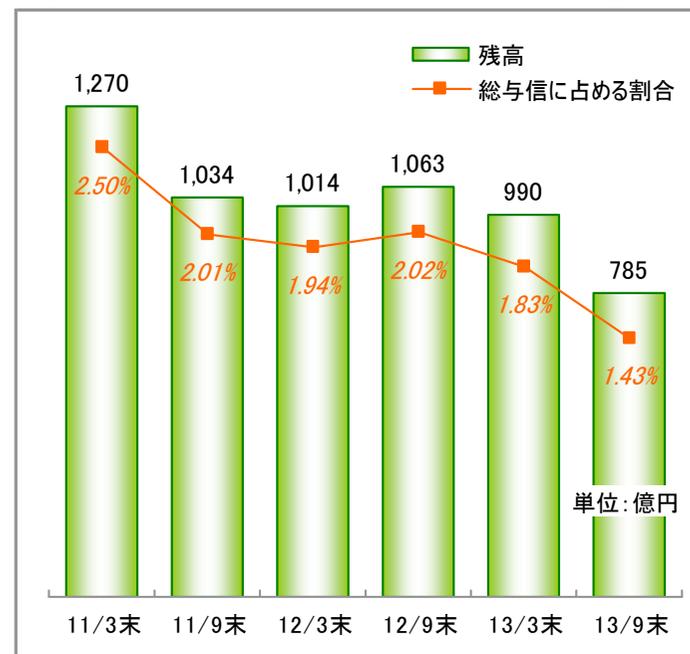
### 金融再生法開示債権

	13/9月末		13/3月末
	13/9月末	13/3月末比	13/3月末
<b>開示債権</b> A	<b>1,615</b>	<b>△ 13</b>	<b>1,628</b>
破産更生債権等	240	△ 7	247
危険債権	1,084	△ 34	1,118
要管理債権	290	+ 27	263
正常債権	53,170	+ 787	52,383
(うち 実抜計画先) [注]	(785)	(△ 205)	(990)
<b>総与信</b> B	<b>54,785</b>	<b>+ 774</b>	<b>54,011</b>
<b>開示債権比率</b> A÷B	<b>2.94%</b>	<b>△ 0.07%</b>	<b>3.01%</b>

[注] 貸出条件変更に応じているが要管理債権とせず、実抜計画を検証の上で正常債権とした債権額。

### 実抜計画先

〔貸出条件変更に応じているが要管理債権とせず、実抜計画を検証の上で正常債権とした債権額〕



[注] 2011年3月末は分割子会社合算ベース。

# 1. 2013年9月期業績

## ④連結自己資本比率

連結ベースの自己資本比率は10.27%(13/3月末比△0.02%)、Tier I 比率は8.08%(13/3月末比+0.19%)となった。

### 連結自己資本比率

単位: 億円

		13/9月末	13/3月末比	13/3月末
Tier I	A	3,555	+ 144	3,411
資本金+資本剰余金		1,760	± 0	1,760
利益剰余金		1,571	+ 136 ①	1,435
少数株主持分		252	+ 6	246
社外流出予定額		△ 19	± 0	△ 19
その他		△ 9	+ 1	△ 10
Tier II	B	1,003	△ 77	1,080
土地再評価差額		218	△ 2	220
一般貸倒引当金		228	+ 4	224
負債性資本		557	△ 79 ②	636
控除項目	C Δ	41	± 0	41
自己資本	D=A+B-C	4,518	+ 67	4,451
リスクアセット	E	43,960	+ 741	43,219
自己資本比率	D÷E	10.27%	△ 0.02%	10.29%
Tier I 比率	A÷E	8.08%	+ 0.19%	7.89%

### 自己資本の13/3月末比増減要因

- ① 利益剰余金の増加 13/3月末比 +136億円
- 13/9月期の連結中間純利益(154億円)の計上により増加した。
 

13/9月期中間純利益の計上	+154億円
土地再評価差額金の取崩し	+2億円
13/3月期末配当の支払い	△19億円
- ② 負債性資本の減少 13/3月末比 △79億円
- 期限付劣後社債の資本算入額が減少した。

# 1. 2013年9月期業績

## ⑤ 単体有価証券

単体ベースの有価証券残高は17,037億円(13/3月末比△232億円)、評価損益は533億円(13/3月末比+2億円)となった。

有価証券の内訳	残高(貸借対照表計上額)			評価損益		
	13/9月末	13/3月末比	13/3月末	13/9月末	13/3月末比	13/3月末
国内債券 A	12,580	+ 219	12,361	111	△ 32	143
国債	5,766	+ 157	5,609	43	△ 9	52
地方債	1,915	△ 18	1,933	10	△ 6	16
社債	4,899	+ 81	4,818	57	△ 17	74
株式 B	1,150	+ 75	1,075	242	+ 95	147
子会社株式	127	± 0	127	-	-	-
その他	1,022	+ 74	948	242	+ 95	147
外国証券 C	2,460	△ 482 ※	2,942	3	△ 44	47
外債	2,450	△ 462	2,912	3	△ 44	47
その他	10	△ 20	30	-	△ 0	0
その他 D	846	△ 43	889	175	△ 17	192
有価証券 A+B+C+D	17,037	△ 232	17,269	533	+ 2	531

残高の13/3月末比増減要因

※ 外国証券 13/3月末比 △482億円

➢ 金利情勢等を踏まえ、外債投資を抑制的な運用とした。

取得	+216億円
換算差	+103億円
売却	△322億円
償還	△432億円
評価損益の減少	△44億円

[注] その他有価証券の貸借対照表計上額(時価)と取得原価との差額。

債券のデュレーション	単位:年		
	13/9月末	13/3月末比	13/3月末
円建	2.79	+ 0.04	2.75
外貨建	3.25	+ 0.20	3.05

## 2. 2014年3月期業績予想

### ① 単体損益

単体ベースの当期純利益は200億円(前期比+23億円、期初予想比+15億円)を見込む。

#### 単体損益

	14/3月期 予想			13/3月期 実績	14/3月期 期初予想
	A	A-B	A-C	B	C
コア業務粗利益 [注1]	1,120	△ 14	± 0	1,134	1,120
(うち 資金利益)	(985)	(△ 16)	(+ 2)	(1,001)	(983)
(うち 役務取引等利益)	(125)	(△ 1)	(△ 3)	(126)	(128)
経費 △	750	+ 49 ①	± 0	701	750
コア業務純益 [注2]	370	△ 63	± 0	433	370
債券等関係損益	△ 0	△ 33	△ 0	33	0
株式等関係損益	10	+ 60	+ 6	△ 50	4
信用コスト [注3] △	55	+ 11	△ 25	44	80
その他臨時損益+特別損益	6	+ 76	+ 8	△ 70	△ 2
(うち システム共同化関連臨時費用)	(△ 0)	(+ 11)	(△ 0)	(△ 11)	(-)
(うち 住宅ローン流動化益の償却)	(-)	(+ 9)	(-)	② (△ 9)	(-)
(うち 退職給付信託設定損)	(-)	(+ 27)	(-)	(△ 27)	(-)
税引前当期純利益	331	+ 31	+ 40	300	291
法人税等 △	131	+ 9	+ 25	122	106
当期純利益	200	+ 23	+ 15	177	185

[注1] 業務粗利益－債券等関係損益

[注2] コア業務粗利益－経費

[注3] 一般貸倒引当金繰入額＋不良債権処理損失額－貸倒引当金戻入益－償却債権取立益

[注4] 2013年3月期決算説明会(2013年5月31日開催)時点の予想値。

#### ① 経費の前期比増加要因

- 地銀共同センターへのシステム移行(13/1月実施)に伴うシステム投資の減価償却等により、機械化関連費用の増加(前期比+38億円)を見込む。
- 13/3月期は、預金保険料の還付(△9億円)が行われた。14/3月期は、預金保険料の還付を予想の段階では織り込んでいない。

#### ② 13/3月期の一過性要因

- 住宅ローン流動化益の一括償却を行った。
- 保有有価証券の一部を退職給付信託に追加拠出し、これに伴う損失を計上した。

## 2. 2014年3月期業績予想

### ②連結損益

連結ベースの当期純利益は215億円(前期比+31億円、期初予想比+25億円)を見込む。

#### 連結損益

	14/3月期 予想	前期比			期初予想比			13/3月期 実績	14/3月期 期初予想 〔注4〕
		A-B	うち 当行単体	うち 連単差	A-C	うち 当行単体	うち 連単差		
	A						B	C	
コア業務粗利益 〔注1〕	1,286	△ 6	△ 14	+ 9	+ 2	± 0	+ 3	1,292	1,284
資金利益	1,048	△ 17	△ 16	△ 1	+ 2	+ 2	± 0	1,065	1,046
役務取引等利益	219	+ 7	△ 1	+ 8	△ 3	△ 3	+ 1	212	222
その他	18	+ 4	+ 2	+ 1	+ 3	± 0	+ 2	14	15
営業経費 △	858	+ 40	+ 38	+ 2	+ 1	+ 1	△ 1	818	857
コア業務純益 〔注2〕	436	△ 55	△ 63	+ 8	+ 5	± 0	+ 5	491	431
債券等関係損益	△ 0	△ 33	△ 33	+ 0	△ 0	△ 0	± 0	33	0
株式等関係損益	10	+ 60	+ 60	+ 0	+ 6	+ 6	± 0	△ 50	4
信用コスト 〔注3〕 △	70	+ 6	+ 11	△ 5	△ 31	△ 25	△ 6	64	101
その他の経常損益+特別損益	13	+ 70	+ 66	+ 3	+ 13	+ 11	+ 2	△ 57	0
税金等調整前当期純利益	381	+ 46	+ 31	+ 16	+ 53	+ 40	+ 13	335	328
法人税等 △	148	+ 14	+ 9	+ 6	+ 26	+ 25	+ 2	134	122
少数株主利益 △	17	+ 2		+ 2	+ 2		+ 2	15	15
<b>当期純利益</b>	<b>215</b>	<b>+ 31</b>	<b>+ 23</b>	<b>+ 9</b>	<b>+ 25</b>	<b>+ 15</b>	<b>+ 10</b>	<b>184</b>	<b>190</b>

〔注1〕 業務粗利益－債券等関係損益

〔注2〕 コア業務粗利益－経費〔営業経費から臨時処理分を除く〕

〔注3〕 貸倒償却引当費用－貸倒引当金戻入益－償却債権取立益

〔注4〕 2013年3月期決算説明会(2013年5月31日開催)時点の予想値。

#### 14/3月期 当期純利益の構成

当行	子会社 関連会社 〔注〕	長崎銀行				西日本シティ TT証券		九州カード		西日本 信用保証		配当消去 のれん償却	連結
200	20			2		3		9		4	△ 5	215	

〔注〕 少数株主持分控除後の当期純利益。

# **Ⅱ 中計 New Stage 2011 ～元気よく～**

# 1. 中計の概要

## ①フレームワーク

### 目指す銀行像

国内トップレベルのサービスを地元で提供し  
お客さまとともに栄える九州No.1バンク

計画期間:2011年4月~2014年3月

### 中期経営計画「New Stage 2011 ~元気よく~」

“時代の変化に対応した総合金融サービス業への進化”と“徹底した生産性向上”

西日本シティ銀行

#### 進むべき方向性

- 「お客さま第一主義」  
サービスの専門性向上  
サービスの利便性向上
- 「収益力の強化」  
顧客基盤の拡大  
グループ総合力の強化  
サービス向上と  
経営合理化の両立
- 「地域貢献」  
地元のお取引先の育成  
元気で環境豊かな  
地域社会づくり

#### 主要施策

##### 6つの改革

##### 経営改革

- 意識・行動改革
- サービス改革
- オペレーション改革
- 人事改革

##### コスト構造改革

##### 機能強化戦略

- システムの共同化移行
- リスク管理の高度化

##### グループ戦略

- グループ会社のサービス向上・経営合理化

##### 地域との共栄

- 地場産業育成
- 環境配慮
- 知的貢献
- 歴史・文化活動

#### 注力する分野

##### コーポレート

- 事業性融資
- ソリューション  
成長分野/国際分野  
環境分野/観光分野

##### リテール

- 個人ローン  
住宅ローン・消費者ローン
- 預り資産

将来の収益基盤づくり

顧客基盤拡大

有価証券運用

地元のお客さま

# 1. 中計の概要

## ②2つのコンセプト

中計のコンセプトは、「時代の変化に対応した“総合金融サービス業”への進化」と「徹底した生産性向上」の2つ。

厳しい環境を乗り越え、国際化時代に対応していくには…  
強靱な経営基盤の構築に取り組むべき。

### 当行が進むべき方向性 = 中計のベース

強靱な経営基盤を構築するために

- ▶ 収益機会を拡大する。
- ▶ コストを削減する。

「収益機会の拡大」と「コスト削減」を同時に実現するために

- ▶ 経営陣の強力なリーダーシップのもと、  
ビジネスモデルを見直す。

### Concept-1 時代の変化に対応した“総合金融サービス業”への進化

お客様のライフステージから生じるさまざまなニーズに対し、  
お客様目線に立った最適なサービスを提供する。

企業まるごとサポート

人生まるごとサポート

### Concept-2 徹底した生産性向上

サービス向上と経営合理化の両立により生産性を向上させる。

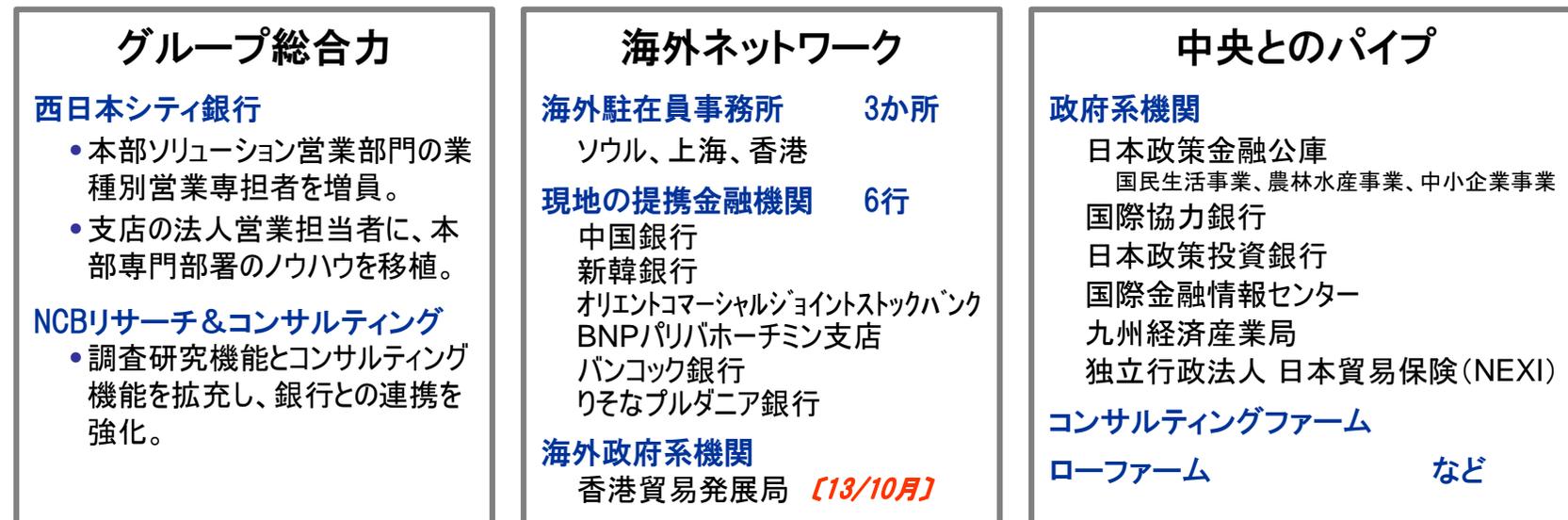
## 2. コーポレート分野の取組み

### ① 企業まるごとサポート

企業・事業者のお客さまに対しては、グループ内のシンクタンクや中央・アジアとの強力なパイプを最大限に活かし、ライフサイクルの各段階に応じた総合金融サービスを提供する「企業まるごとサポート」を展開。



### 企業まるごとサポート



## 2. コーポレート分野の取組み

### ②事業性融資

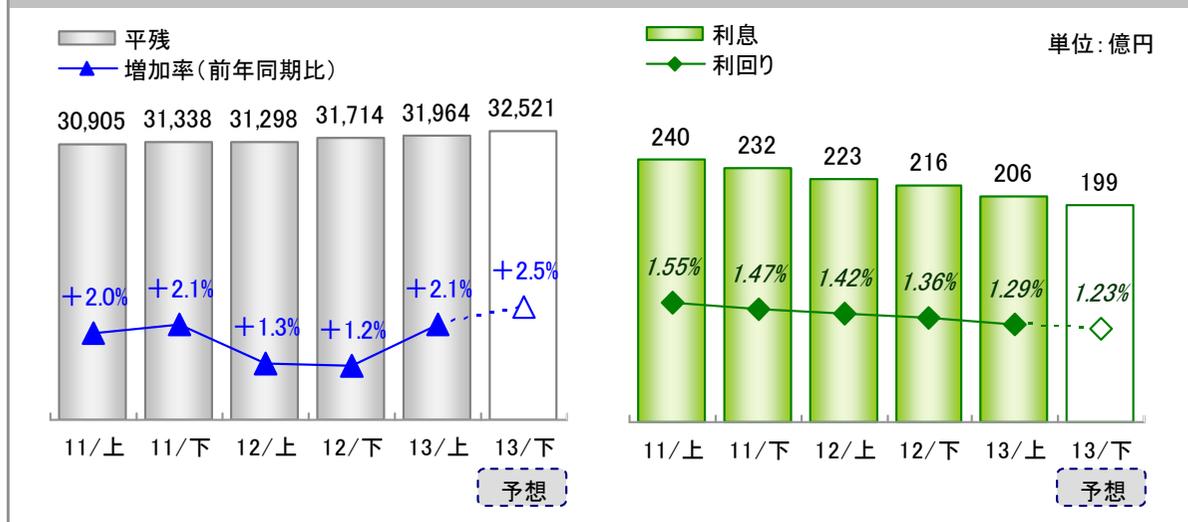
ミドルリスク先・ローリスク先ともにボリュームの拡大を進め、事業性融資の平残は、14/3月期において3兆2,242億円(前期比+737億円、期初予想比+347億円)を見込む。

#### 事業性融資の平残・利息・利回り

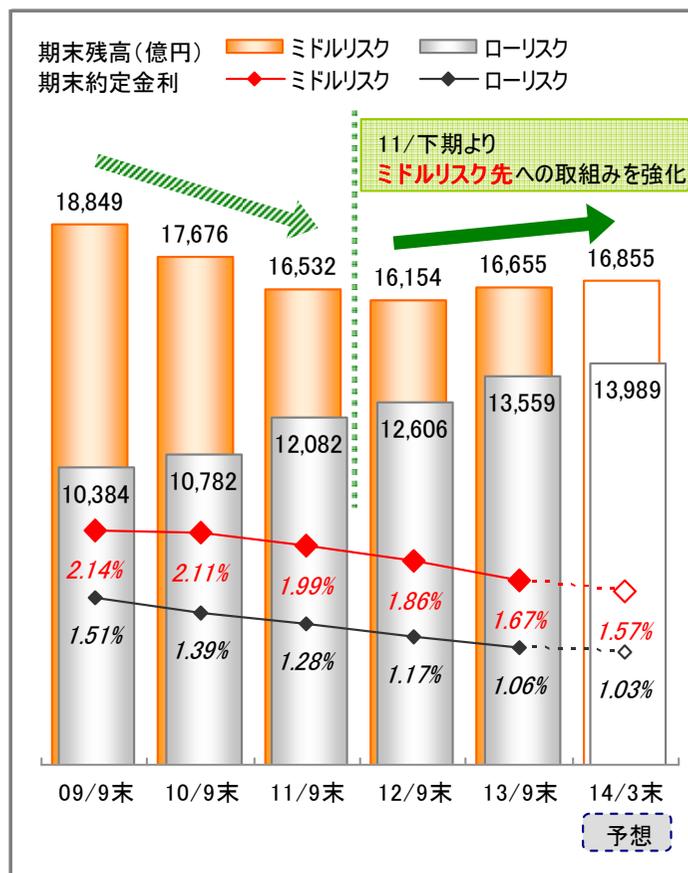
14/3月期(通期)の予想					
	14/3月期			13/3月期	14/3月期
	予想	前期比	期初予想比	実績	期初予想
	A	A-B	A-C	B	C [注]
平残	32,242	+ 737	+ 347	31,505	31,895
利回り	1.26%	△ 0.13%	△ 0.02%	1.39%	1.28%
利息	406	△ 34	△ 4	440	410

[注] 2013年3月期決算説明会(2013年5月31日開催)において公表した予想値。

#### 半期ごとの実績・予想



#### ミドルリスク先・ローリスク先の残高・約定金利



[注] ミドルリスク先 { 正常先(信用格付1~6)のうち信用格付5・6の先  
 要注意先(信用格付7~9)  
 ローリスク先 { 正常先(信用格付1~6)のうち信用格付1~4の先

## 2. コーポレート分野の取組み

### ③国際ビジネス

NCBリサーチ&コンサルティングとの連携と、アジア各国の現地企業や国際業務経験豊かな専門家とのアライアンスにより、地元企業の国際ビジネスをサポート。

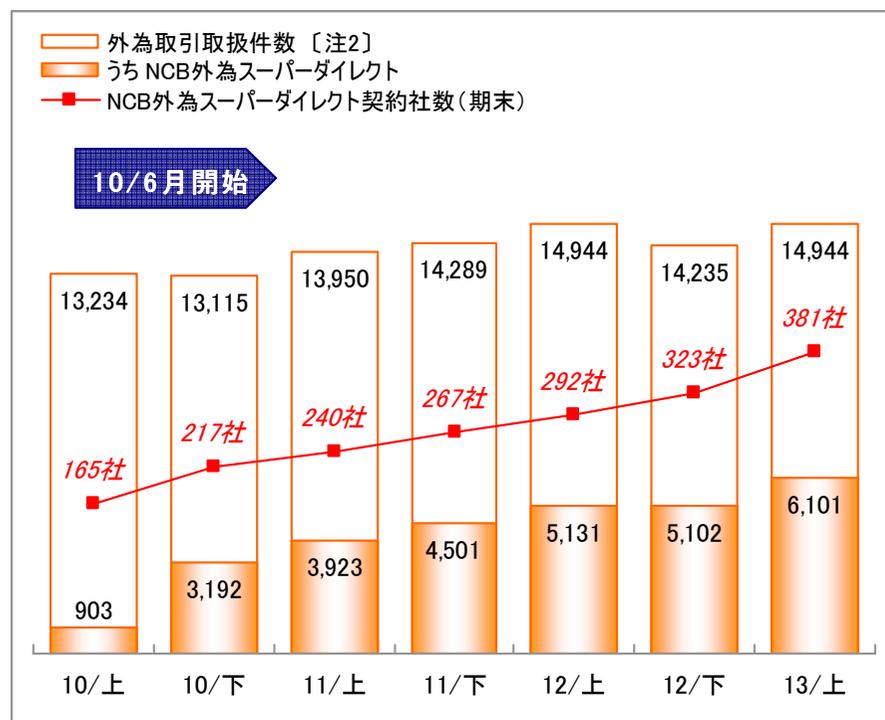
お客さまのニーズ	グループ総合力と現地企業や専門家とのアライアンスを活かした 質の高いコンサルティングと先進的な商品・サービス
<b>情報&amp;コンサルティング</b>	アジア進出に役立つ情報を提供するセミナー 各国の経済動向、法律、商習慣、文化などに関する情報 海外赴任者の労務管理、危機管理などに関する情報 外国企業との商談会（自治体・九州経済産業省・現地のビジネスマッチング企業などと、国内または現地で共催） 海外進出企業向けセミナー・交流会 NCBリサーチ&コンサルティングの「国際コンサル室」 [12/4月開設] <b>中国銀行トレーニー経験者を配置</b> アジアビジネス支援の総合WEBサイト「アジアへの扉」 [12/9月開設] サポート企業 12/下期:26社⇒13/上期:35社 海外展開トータルサポートの専門窓口「World Business Square」 [13/4月開設、現在14拠点]
<b>貿易決済</b> （外国送金、信用状開設）	インターネットによる外国為替取引「NCB外為スーパーダイレクト」 [10/6月開始、以降サービス内容を拡充] 人民元建て貿易決済 [10/8月] 韓国ウォン建て送金 <b>新韓銀行と連携</b> [11/8月]
<b>為替リスクヘッジ</b>	リープオーダー（値段等の条件を指定する“指値注文”） [10/4月] レンジフォワード（売買レートを一定レンジ内に収めるオプション取引） [10/4月] ハイブリッド型通貨オプション [11/5月] 通貨オプションの取扱い通貨拡大 [11/10月] インターネットによる為替予約「NCBダイレクト為替予約」 [11/10月] <b>九州地銀初</b>
<b>海外事業</b> （資金調達、インフラ整備）	ツー・ステップ・ローン(米ドル建て) <b>国際協力銀行と連携</b> [11/4月] <b>地銀初</b> ベトナム民間企業の水力発電事業向け協調融資 <b>BNPパリバ銀行ホーチミン支店と連携</b> ベトナム政府100%保証、NEXIの保険付保 [12/4月] <b>地銀初</b>

## 2. コーポレート分野の取組み

### ③国際ビジネス ～インターネット取引～

貿易決済や為替リスクヘッジへのお客さまのニーズに対し、インターネットによる利便性の高いサービスを展開。

NCB外為スーパーダイレクト<sup>[注1]</sup>の  
契約社数および外為取引取扱件数



[注1] インターネットを經由して、外国送金、信用状開設・条件変更の申込みおよび取引履歴・計算書の照会、外貨預金の入出金明細・残高の照会ができるサービス。

[注2] 外為取引取扱件数=外国送金取扱件数+輸入信用状取扱件数

貿易為替取扱高 10/上期:567百万米ドル⇒13/上期:774百万米ドル

NCBダイレクト為替予約<sup>[注]</sup>の  
契約社数および為替予約締結件数



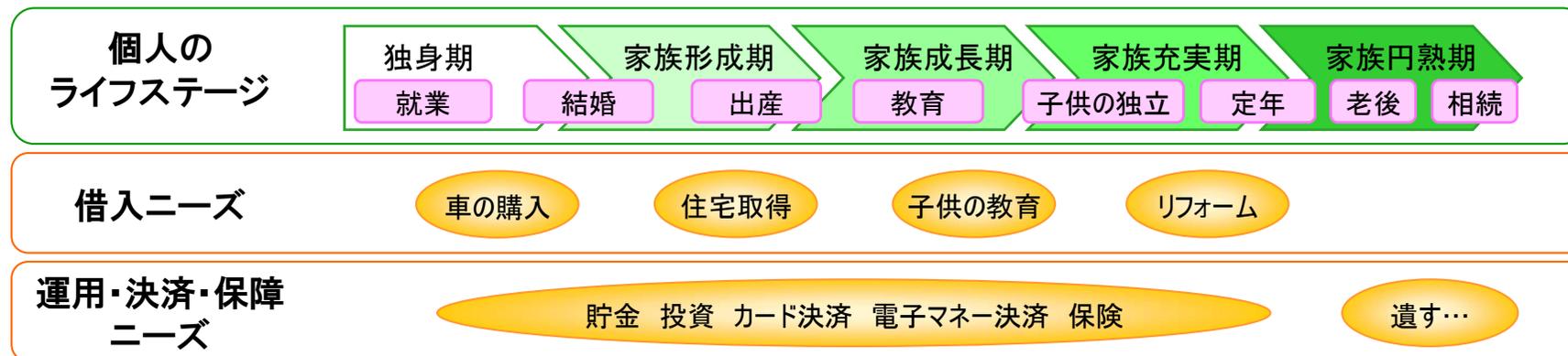
[注] インターネットを經由して為替予約取引(含むリブオーダー)および取引履歴・為替予約残高等の照会ができるサービス。

為替予約締結金額 11/下期:171百万米ドル⇒13/上期:296百万米ドル

### 3. リテール分野の取組み

#### ①人生まるごとサポート

個人のお客さまに対しては、グループ内の証券会社・カード会社も活用し、ライフステージの各段階に応じた総合金融サービスを提供する「人生まるごとサポート」を展開。



### 人生まるごとサポート

#### 利便性 いつでも

##### 土日営業拠点

11/3月末:28か所→14/3月末:50か所程度

- 土日祝日や平日15時以降もご利用いただける店舗・専門チャンネルを増設。

##### ダイレクトバンキング

- コールセンターが土日も、ローンの申込受付・相談受付・セールス、預り資産のセールスを実施。

#### 専門性

##### マネーアドバイザー

11/3月末:237人→14/3月末:280人程度

- 預り資産専担者「マネーアドバイザー」を増員。

##### 専門チャンネル

11/3月末:18か所→14/3月末:40か所程度

- ローンや保険の専門チャンネルを増設。

##### グループ会社

西日本シティTT証券、九州カード

### 3. リテール分野の取組み

### ②個人ローン ～住宅ローン～

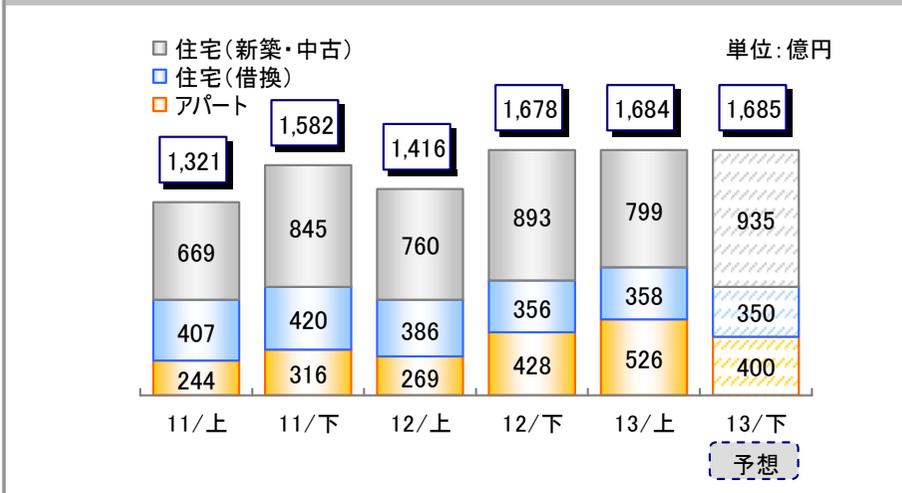
地元地域の底堅い住宅需要の取込みと消費税率引上げ前の駆け込み需要への対応により、ボリュームの拡大を進め、住宅ローンの平残は、14/3月期において2兆169億円(前期比+1,147億円、期初予想比+78億円)を見込む。

住宅ローンの実行額

14/3月期(通期)の予想					
	14/3月期			13/3月期	14/3月期
	予想	前期比	期初予想比	実績	期初予想
	A	A-B	A-C	B	C [注]
住宅(新築・中古)	1,734	+ 81	+ 34	1,653	1,700
住宅(借換)	708	△ 34	△ 82	742	790
アパート	926	+ 229	+ 186	697	740
計	3,369	+ 275	+ 139	3,094	3,230

[注] 2013年3月期決算説明会(2013年5月31日開催)において公表した予想値。

半期ごとの実績・予想

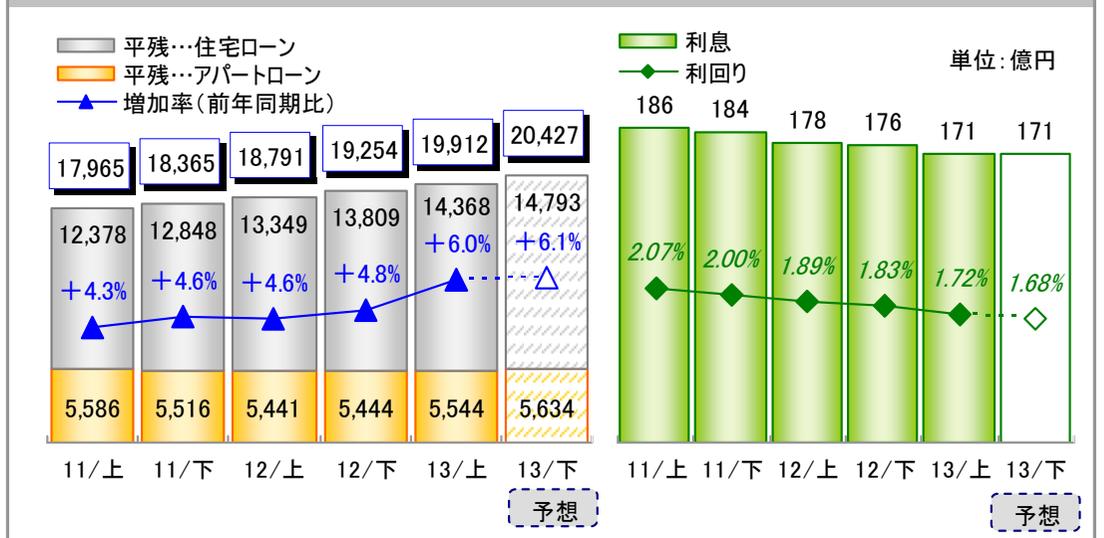


住宅ローンの平残・利息・利回り

14/3月期(通期)の予想					
	14/3月期			13/3月期	14/3月期
	予想	前期比	期初予想比	実績	期初予想
	A	A-B	A-C	B	C [注]
平残	20,169	+ 1,147	+ 78	19,022	20,091
利回り	1.70%	△ 0.16%	+ 0.01%	1.86%	1.69%
利息	343	△ 11	+ 3	354	340

[注] 2013年3月期決算説明会(2013年5月31日開催)において公表した予想値。

半期ごとの実績・予想



### 3. リテール分野の取組み

### ②個人ローン ～消費者ローン～

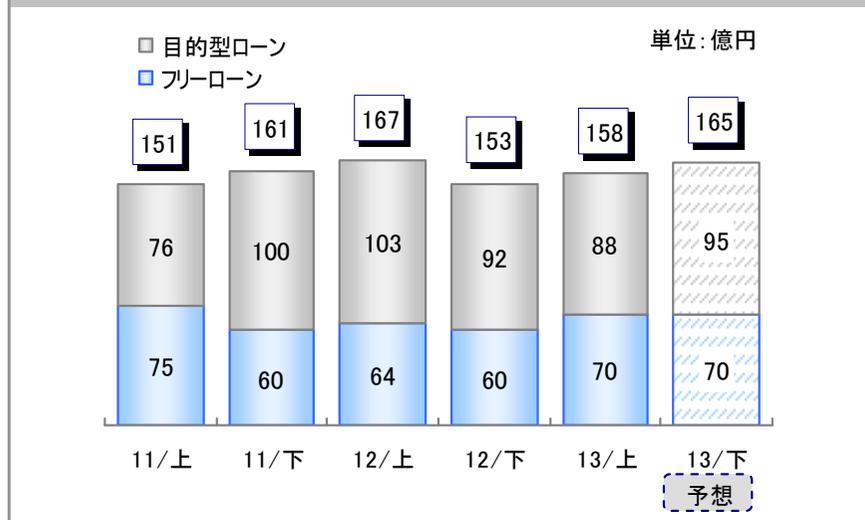
消費者ローンの平残は、14/3月期において1,371億円(前期比+15億円、期初予想比△14億円)を見込む。

消費者ローン(証貸)の実行額

14/3月期(通期)の予想					
	14/3月期			13/3月期	14/3月期
	予想	前期比	期初予想比	実績	期初予想
	A	A-B	A-C	B	C [注]
目的型ローン	183	△ 13	△ 32	196	215
フリーローン	140	+ 16	+ 10	124	130
計	323	+ 3	△ 22	320	345

[注]2013年3月期決算説明会(2013年5月31日開催)において公表した予想値。

半期ごとの実績・予想

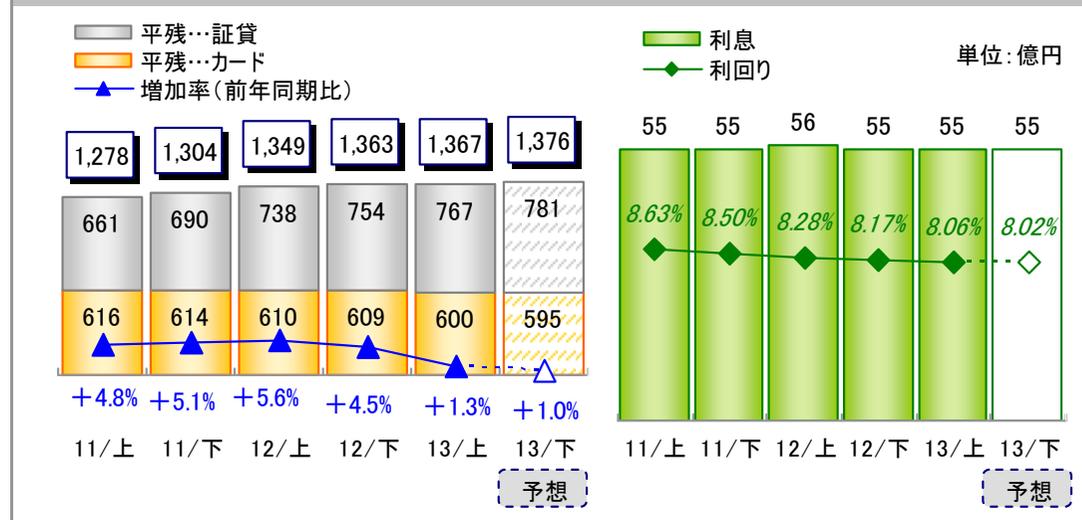


消費者ローンの平残・利息・利回り

14/3月期(通期)の予想					
	14/3月期			13/3月期	14/3月期
	予想	前期比	期初予想比	実績	期初予想
	A	A-B	A-C	B	C [注]
平残	1,371	+ 15	△ 14	1,356	1,385
利回り	8.04%	△ 0.19%	+ 0.07%	8.23%	7.97%
利息	110	△ 1	0	111	110

[注]2013年3月期決算説明会(2013年5月31日開催)において公表した予想値。

半期ごとの実績・予想



### 3. リテール分野の取組み

### ②個人ローン ～専門チャンネル～

ローン専門チャンネルにより、利便性・専門性の高いサービスを展開。

ローンの専門チャンネル

#### ■「ローン営業室」「NCBローンプラザ」

ローンの専門家が常駐。  
土日や平日15時以降も営業。

	地域	現在の拠点数（うち土日営業）	13/4月以降の新設
福岡県 19か所	福岡都市圏	14 か所（12）	
	北九州都市圏	3 か所（3）	
	筑後（久留米市）	1 か所（1）	
	筑豊（飯塚市）	1 か所（1）	
宮崎県	宮崎 市	1 か所（1）	ローン宮崎営業室 [13/5月]
山口県	下 関 市	1 か所	NCBローンプラザ下関 [13/4月]

#### ■コールセンター「ダイレクト営業室」

土日のローン営業を実施。 [11/5月～]

#### ■ローン専用サイト「714919.jp（ナイスクイック）」

インターネットでローンのお申込みを受付。

住宅ローンのチャンネル別実行額



消費者ローン(証貸)のチャンネル別実行額



### 3. リテール分野の取組み

### ③ 預り資産

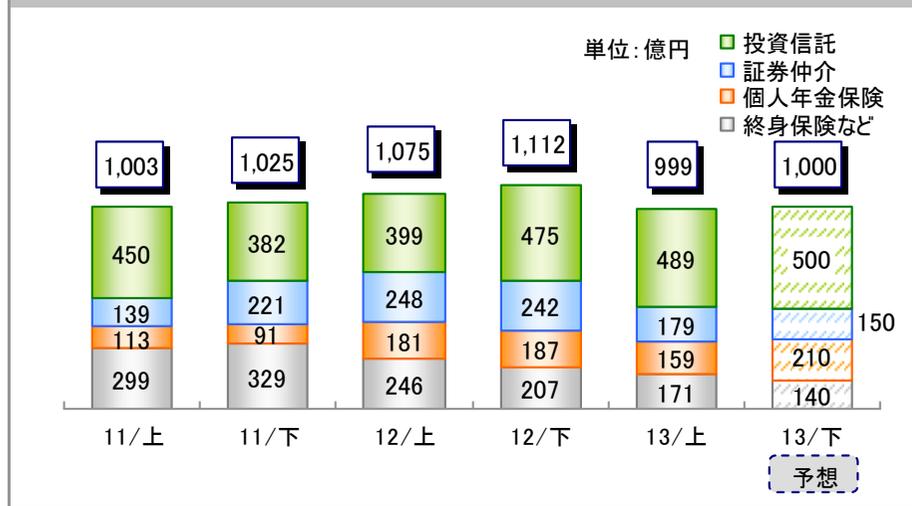
長期金利低下により外債仲介や一時払終身保険販売の減少を見込むが、投資信託に特に注力し、預り資産の販売額は14/3月期において1,999億円(前期比△189億円、期初予想比△201億円)、手数料は51.3億円(前期比+1.4億円、期初予想比△0.2億円)を見込む。

預り資産の販売額

14/3月期(通期)の予想					
	14/3月期			13/3月期	14/3月期
	予想	前期比	期初予想比	実績	期初予想
	A	A-B	A-C	B	C [注]
投資信託	989	+ 115	△ 111	874	1,100
証券仲介	329	△ 161	△ 71	490	400
個人年金保険	369	+ 1	△ 31	368	400
終身保険など	311	△ 142	+ 11	453	300
計	1,999	△ 189	△ 201	2,188	2,200

[注] 2013年3月期決算説明会(2013年5月31日開催)において公表した予想値。

半期ごとの実績・予想

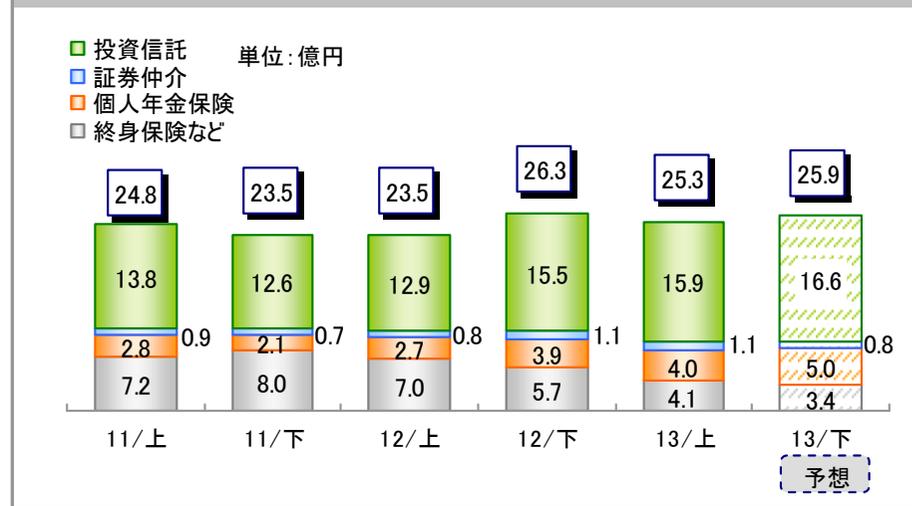


預り資産の手数料

14/3月期(通期)の予想					
	14/3月期			13/3月期	14/3月期
	予想	前期比	期初予想比	実績	期初予想
	A	A-B	A-C	B	C [注]
投資信託	32.6	+ 4.1	+ 0.8	28.5	31.8
証券仲介	1.9	0.0	△ 1.1	1.9	3.0
個人年金保険	9.1	+ 2.4	△ 0.4	6.7	9.5
終身保険など	7.5	△ 5.2	+ 0.4	12.7	7.1
計	51.3	+ 1.4	△ 0.2	49.9	51.5

[注] 2013年3月期決算説明会(2013年5月31日開催)において公表した予想値。

半期ごとの実績・予想



### 3. リテール分野の取組み

#### ④ 預り資産 ～専門チャンネルと証券子会社～

専門チャンネルの拡充および西日本シティTT証券との連携により、グループ全体で利便性・専門性の高いサービスを展開。

##### 預り資産の専門チャンネル

###### ■ 銀行の保険専門チャンネル「NCBほけんプラザ」

保険の専門家が常駐。  
一般店舗よりも商品ラインナップが充実。  
土日や平日15時以降も営業。

	地域	現在の拠点数 (うち土日営業)	13/4月以降の新設
福岡県 7か所	福岡都市圏	5 か所 ( 5 )	
	北九州都市圏	1 か所 ( 1 )	
	筑後(久留米市)	1 か所 ( 1 )	
宮崎県	宮崎市	1 か所 ( 1 )	NCBほけんプラザ宮崎 [13/5月]
山口県	下関市	1 か所	NCBほけんプラザ下関 [13/4月]

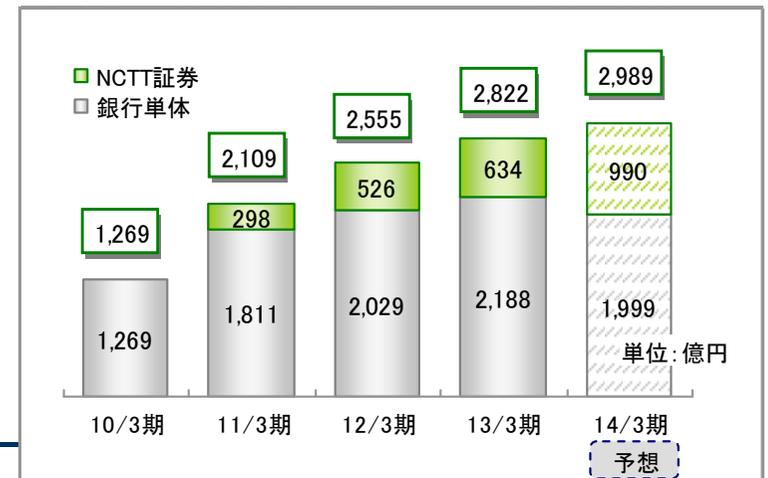
###### ■ 銀行のインターネット投資信託「net10.jp (Ne投)」

インターネットで投資信託の販売や投資状況照会のサービスを提供。

###### ■ 西日本シティTT証券の店舗網

	地域	現在の拠点数	13/4月以降の新設
福岡県 10か所	福岡都市圏	5 か所	
	北九州都市圏	3 か所	
	筑後(久留米市)	1 か所	
	筑豊(飯塚市)	1 か所	
宮崎県	宮崎市	1 か所	宮崎支店 [13/5月]

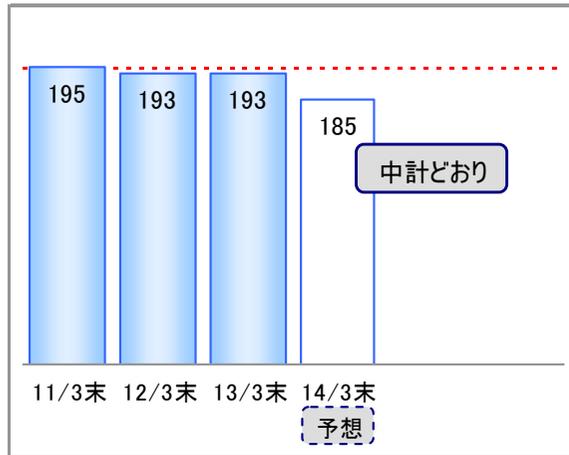
預り資産の販売額(西日本シティTT証券と合算ベース)



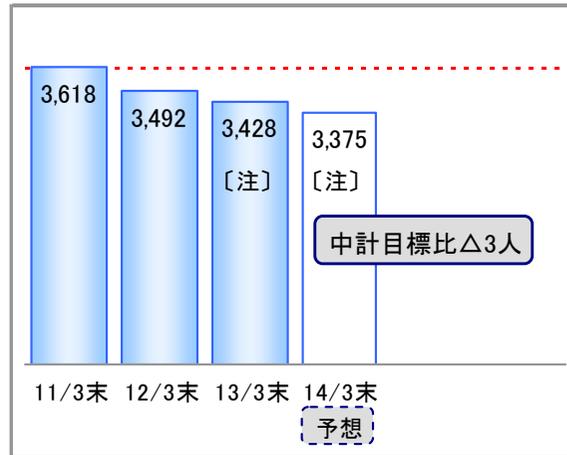
# 4. 生産性の向上

経費は、14/3月期において750億円(前期比+49億円、中計目標比△5億円)を見込む。

平日15時まで営業の旧来型店舗

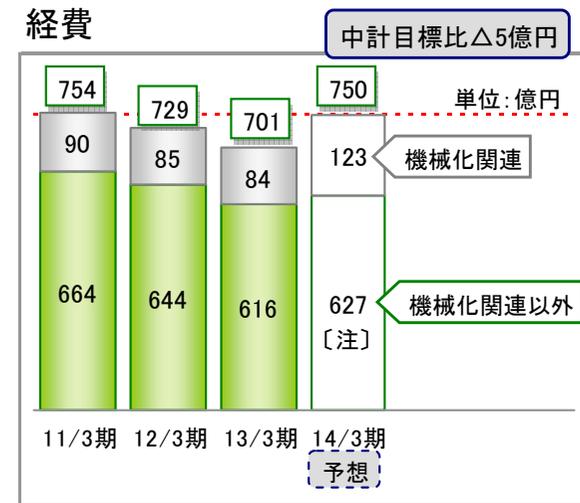


行員数(出向者を除く)



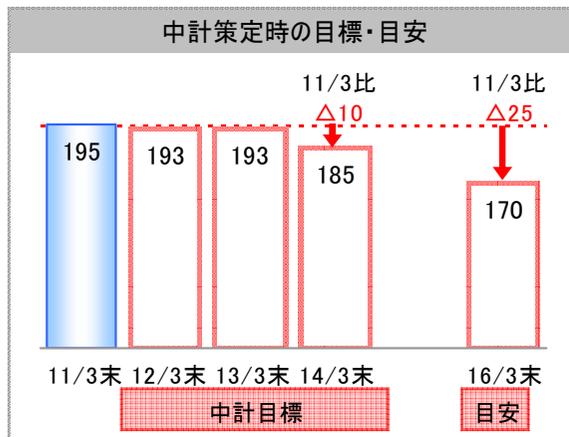
[注] 100%子会社の内製化に伴う増加(2012年4月…39名、2013年12月…207名)を含んでいない。

経費

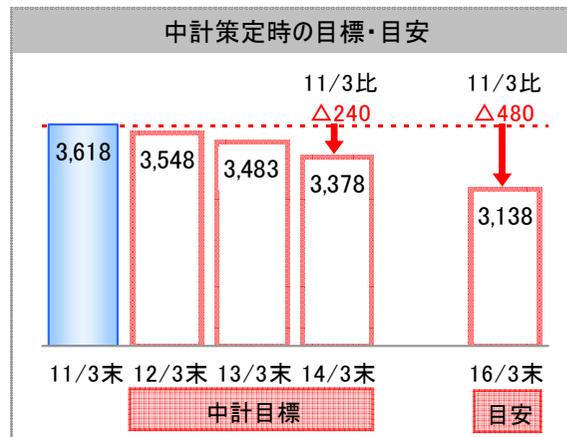


[注] 預金保険料は、2014年3月期に保険事故の発生等がない場合、9億円程度減少する見込み。

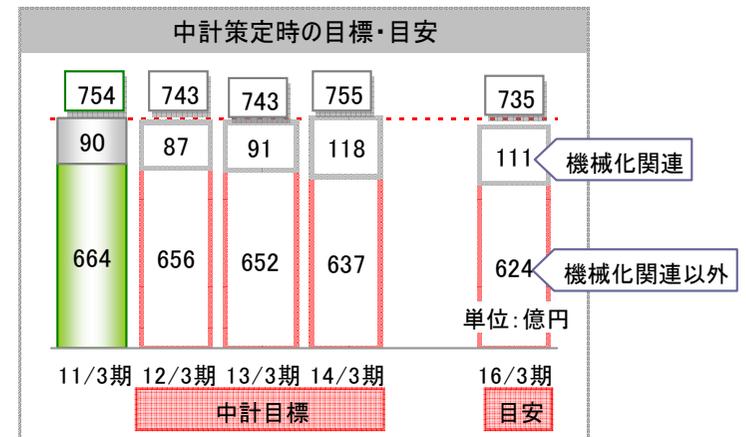
中計策定時の目標・目安



中計策定時の目標・目安



中計策定時の目標・目安



# Ⅲ 来期以降の展望

# 1. 経営環境と当行の位置づけ

合併～2013年3月期

現在の立ち位置

今後のあり方

当行の位置づけ

## 3つの課題の解消

- 合併に伴う諸課題の克服
- 公的資金の完済
- 地銀共同センターへのシステム移行

## 本来有する潜在力の発揮

### 中計目標からみた評価

#### 〔定量面〕

「貸出のボリューム拡大」と「経費削減」は、中計目標を達成する見込み。

#### 〔定性面〕

2つのコンセプト  
「総合金融サービス業への進化」と「生産性向上」は、十分に達成しつつある。

+

### 中計期間中の新たな施策

- ミドルリスク先への取組み強化
- 国際ビジネスのさらなる積極化
- 中央・アジアとのパイプの拡充
- 新たな成長分野（農業）への先進的取組み
- 西日本シティIT証券との連携強化
- 新たな営業スタイル（考える営業、自主性）への転換
- 県外主要都市（下関・宮崎）におけるサービス機能強化

### 温故知新

- 従来の良さである“活力”の維持
- 地元との共栄

### 総合金融力のさらなる追求

- グループ戦略の強化
- 地元における競争で培ったノウハウの他エリアへの積極展開

### 地域発展の先導

- 中央・アジアとの強力なパイプ・国内トップレベルのノウハウを活かした日本をリードする地域「九州」の創造

### 経営環境

- マクロ経済の健全化と、それに伴うリスク（国内外の金融情勢の不安定性）
- 人口動態から予想される市場の縮小
- 福岡の潜在力と特異な競争環境
- 九州-アジアの近接性

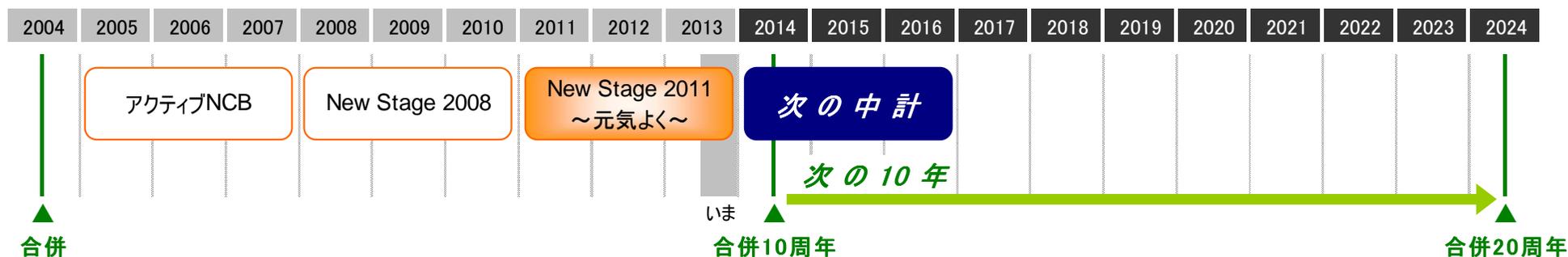
## 2. 次の中計と次の10年

次の中計での新たな視点

エリア	福岡県外の主要都市等における 国内トップレベルのサービスの積極展開				
ビジネス分野	<p>グループ全体の総合金融力の発揮による ビジネス分野の拡大</p> <p>証券・カード・保険・国際など 多様なビジネス分野を グループ戦略により強化</p>				
営業体制	<p>人材・チャネルのレベルアップによる 営業体制の効率性とクオリティの向上</p> <table border="0"> <tr> <td data-bbox="568 611 752 804">人材</td> <td data-bbox="801 611 2018 804"> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「考える営業」のさらなる追求 と 営業・審査の機能的連携</li> <li>■ 女性活躍推進や若手行員の育成強化(世代・人材の特性を踏まえた対応)などによるクオリティの向上</li> <li>■ 適材適所のさらなる徹底</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="568 820 752 914">チャネル</td> <td data-bbox="801 820 2018 914"> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ICT活用による効率性とクオリティの高い「新しい顧客インターフェース」の構築</li> <li>■ 店舗の戦略的スクラップ&amp;ビルド(建替えを含む)</li> </ul> </td> </tr> </table>	人材	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「考える営業」のさらなる追求 と 営業・審査の機能的連携</li> <li>■ 女性活躍推進や若手行員の育成強化(世代・人材の特性を踏まえた対応)などによるクオリティの向上</li> <li>■ 適材適所のさらなる徹底</li> </ul>	チャネル	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ICT活用による効率性とクオリティの高い「新しい顧客インターフェース」の構築</li> <li>■ 店舗の戦略的スクラップ&amp;ビルド(建替えを含む)</li> </ul>
人材	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「考える営業」のさらなる追求 と 営業・審査の機能的連携</li> <li>■ 女性活躍推進や若手行員の育成強化(世代・人材の特性を踏まえた対応)などによるクオリティの向上</li> <li>■ 適材適所のさらなる徹底</li> </ul>				
チャネル	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ICT活用による効率性とクオリティの高い「新しい顧客インターフェース」の構築</li> <li>■ 店舗の戦略的スクラップ&amp;ビルド(建替えを含む)</li> </ul>				

次の10年に向けて ～合併10周年～

合併10周年事業 「ステークホルダーへの感謝」と「次の10年へのステップアップ」



- 本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、特定の証券の売買を勧誘するものではありません。
- 本資料に記載された事項の全部または一部は、予告なく修正または変更されることがあります。
- 本資料には将来の業績に係る記述が含まれていますが、これらの記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。  
将来の業績は、経営環境の変化等により異なる可能性があることにご留意ください。



ココロがある。コタエがある。

西日本シティ銀行